

「東京都長期ビジョン」の策定にあたって

オリンピック・パラリンピックが開催される2020年まで、残すところ5年余りとなりました。現在、競技会場の見直しをはじめ、防災・テロ対策、来訪者へのおもてなしなど、大会成功に向けた準備を全力で進めています。

しかし、2020年はゴールではなく、一つの通過点です。オリンピック・パラリンピックを跳躍台にして「東京で生まれ、生活し、老後を過ごせて良かった」と誰もが実感できる都市にしていくこと、これこそが私の最終目標です。

都知事として、東京の未来に思いを馳せる時、私の心に浮かぶのは、二人の人物の偉業です。一人は、19世紀、中世のままの姿であったパリを現在の華の都に大改造したジョルジュ・オスマン男爵。そして、もう一人は、関東大震災からの東京の復興計画を創り上げた後藤新平です。いつの時代においても、イマジネーションを駆使し、将来を確かに展望した計画こそが、都市の発展の礎を築きます。

まさに今必要なのは、東京の将来を見据えたグランドデザインを描くことであり、都民・国民に明るい希望を届けることです。この「東京都長期ビジョン」は、「成熟の中で成長を続ける」社会システムを構築するための都政の大方針となるものです。2020年大会の成功に向けた多岐にわたる取組や、オリンピック・パラリンピックの有形無形のレガ

シーを明らかにしたほか、少子高齢・人口減少社会の到来や首都直下地震の脅威など東京が直面する諸課題に真正面から向き合い、数値目標を設定して具体的な政策展開を提示するなど、解決への道筋を示しています。夢や希望の持てる社会の実現に向けた10年間の具体的な工程表—それが「東京都長期ビジョン」です。

東京で暮らして本当に良かったと感じるためには、豊かな生活を支える経済の活性化が不可欠です。そのためにも、この長期ビジョンでは、雇用や福祉の充実といった生活の質の向上を図る重点政策に加え、金融や産業振興、国家戦略特区など、東京の経済を盛り上げていく取組にも力を入れます。

東京を舞台として、世界を動かし、日本を牽引する様々な社会経済活動が絶え間なく営まれています。そこでの主人公は、都民一人ひとりです。私は、皆様と力を合わせ、その舞台にふさわしい「世界一の都市・東京」を創造するために、全力を尽くします。

平成26(2014)年12月 東京都知事

川添要一

